

A decorative vertical bar on the left side of the slide, consisting of several vertical lines of varying shades of gray and a cluster of five dark blue circles of different sizes.

MORAL MINDS
THE LATTER PART OF
CHAPTER 5.
PERMISSIBLE
INSTINCTS

2008. 1. 16
科哲D2 小口峰樹
@信原ゼミ

目次

5.Pinocchio's Nose

- 社会規範の違反者を見破る能力の生得性について

6.Compassionate Cooperation

- 協力行動における感情の役割とその限界について

7.Navigating Norms

- さまざまな種類の社会規範を区別し理解する能力について

8.Going Native

- 生得主義に関する三種類の区別について

5. PINOCCHIO'S NOSE (PP. 272-4)

○ 騙し屋を見抜く能力

- ⇒ 騙し屋を見抜く能力はルールの違反者を見抜くというより一般的な能力の一部。
- ⇒ ルールが違反されたかどうかを見抜くためには、推論を働かせ、前提をチェックし、事の真偽を評価しなければならない。
- ⇒ 一般的な推論能力は学習を通じて形成されるため生得的ではない。総じてわれわれは論理的推論が苦手である。
- ⇒ ルールの違反者を見抜く能力も生得的ではない？

- ✓ われわれの心はある特定の種類の問題に対して効果的に働く推論能力を進化において身につけてきた可能性はある。

5. PINOCCHIO'S NOSE (PP. 274-5)

○ Cosmides & Tooby の仮説

⇒われわれの祖先は契約や交易などの状況に繰り返し直面してきた。こうした状況には必ず相手を出し抜こうとする者が出てくる。

⇒われわれの心はこうした場面で騙し屋を見破る特定の能力を進化において身につけてきた。

5. PINOCCHIO'S NOSE (PP. 275-6)

○ 四枚カード問題

✓ この仮説をテストするためにWasonの「四枚カード問題」を見よう。

➤ 古典Ver.と社会契約Ver.

⇒たいていの人、古典Ver.は苦手だが社会契約Ver.は得意。
社会契約Ver.が得意なのは、その問題がルールの違反者を見破る場面と関連しているから。

⇒違反者を見破るのが得意なのは、当初の約束によって生じた要求を満たさずに利益だけを受け取ろうとする者を見抜くメカニズムが進化によってわれわれに備わっているから。

⇒こうしたメカニズムは無意識的かつ自動的に働く。

5. PINOCCHIO'S NOSE (P. 277)

○ Sperber & Girotto の反論

- ✓ 四枚カード問題における成績の向上は、進化上関連した社会的文脈だけではなく、他の非社会的文脈においても引き起こされる。それゆえ、社会契約において違反者を見抜く能力は、文脈に関連して性能が変化するより一般的な能力の一部にすぎないのではないか。

⇒一例として、言い回しを変えた場合の性能の変化を見よう（他にも、違反者を見破ることで返礼がもらえる場合などにも性能は向上する）。

5. PINOCCHIO'S NOSE (PP. 277-8)

○ 言い回しによる変化

✓ “If P, then Q” と “not-P or Q” は論理的に同値。

1a. If you sleep with my wife, I will kill you

1b. Don't sleep with my wife, or I will kill you

2a. If you are over 21, then you can drink alcohol

2b. You are not over 21, or you can drink alcohol

⇒1の場合はaとbの関連性をすぐに洞察できるが、2の場合はそうではない。

⇒否定命令で書くことで、人々は“not-P or Q”の別表現をすぐに探そうとする。

5. PINOCCHIO'S NOSE (P. 278)

○ Cosmides & Tooby の反論

1.元々の仮説は、社会的文脈に関連した問題に特化した推論能力が進化的に備わっているかどうかであって、他の問題に特化した他の推論能力があるかどうかは関係ない。

⇒加えて、進化的に備わった推論能力が他の種類の問題解決において借用されているという可能性もある。

5. PINOCCHIO'S NOSE (PP. 278-9)

○ Cosmides & Tooby の反論

2.「被雇用者が年金を受け取るなら、被雇用者はその会社に少なくとも十年は勤務し続けていなければならない」という設問。雇用者側に立って読むか非雇用者側に立って読むかに応じて、同じ設問でも異なる種類の違反に注意が向けられる。(Gigerenzer & Hug)

⇒「もし君がXをするなら、君は足首の周りに火山岩のかけらを付けなきゃいけない」という設問。それに続いて違反者のカードを探す。Xが報酬ならば成績は上がり、報酬でないか懲罰であるなら成績は下がる。(Cosmides & Tooby)

⇒成績に変化をもたらすのは、何らかの社会契約に関わる報酬と懲罰の構造だけかもしれない。

5. PINOCCHIO'S NOSE (P. 279)

○ Cosmides & Tooby の反論

3.前頭葉と扁桃体の間の回路を損傷した患者(RM)

- ▶ 前頭葉……抑制制御と報酬処理
- ▶ 扁桃体……感情分析

⇒社会契約条件と予防措置条件における四枚カード問題

- ▶ 社会契約条件……「もし君が便益を受けるなら、君は要求を満たさなければならない」
- ▶ 予防措置条件……「もし君が危険な行為を行うなら、君は予防行為をはじめに行わなければならない」

⇒RMは予防措置条件では通常の成績を収めたが、社会契約条件では大きく成績を落とした。

⇒二つの条件に関わる推論メカニズムは、それぞれ別の神経回路を用いている。

5. PINOCCHIO'S NOSE (P. 280)

○ 発達研究における証拠

✓ Cosmides & Tooby の仮説が正しいとすれば、幼児は発達の初期過程で四枚カード問題に表れるような条件文を解決する能力を示すはずである。

⇒ 絵を使った実験で、3、4歳の幼児は好成績を収めた。
(Nunez & Harris)

⇒ 幼児はなじみのない条件でも変わらず能力を発揮し、意図的な違反と偶然的な違反の区別もでき、さらに意図の善し悪しによって評価を変化させることもできた。

⇒ 幼児は行為者の行動のレベルだけではなく心理のレベルを理解できている。

✓ 社会規範に違反した騙し屋を見破る能力は生得的。

6. COMPASSIONATE COOPERATION (P. 285)

○ 協力や契約における感情の役割

- ✓ 感情は、協力行動を安定させ、約束を履行させるための非自発的な動因の役割を果たす。(Schelling & Frank)(例: 自己利益に基づいて約束を破ろうとする際に感じる罪悪感)

⇒ 罪悪感、共感、狼狽、誠実、羨望、怒り、嫌悪感といった感情は、騙したり、嘘をついたり、逃げ出したり、約束を破ったりといった利己性に対して、どの程度の強さで安全装置としての役割を果たすのか？

- ✓ Frankは、感情はわれわれを行為にコミットさせ、それを行う動機を与える、と主張。

⇒ 心理学と神経生物学の成果を見よう。

6. COMPASSIONATE COOPERATION (P. 286)

○ 感情の心理学

- 最後通牒ゲームにおいて、相手の顔写真を情報として与えられるとふるまいはどう変化するか？

⇒自分と似た合成写真を提示されたとき、肯定的な感情が誘発され、ふるまいはより利他的なものになる。

⇒身内びいきの傾向を示している。

- 交渉ゲームを繰り返す場合において、罪悪感を感じていると認める被験者は、その後、残りのゲームで協力的になりやすい。

⇒罪悪感は騙しによる安定性の崩壊を食い止める役割を果たす。

6. COMPASSIONATE COOPERATION (P. 287)

○ 感情の神経生物学

- 囚人のジレンマゲームにおいて、互恵的行動が失敗したり、提案が不公正だった場合には、前島が優位に活性化する。
⇒前島は痛み、苦悩、怒り、そしてとりわけ嫌悪感といった否定的感情と結びついている。
 - 利他的懲罰を行っているとき、懲罰者は安堵と満足を感じており、その証拠に尾状核が活性化する。
⇒尾状核は報酬経験を処理する中枢。
- ✓ 感情は協力や騙し屋に対する懲罰を行うための戦略的意思決定に不可欠なものとして含まれている。

6. COMPASSIONATE COOPERATION (P. 288)

○ 経済人と互酬人の合いの子

✓ われわれはFrankの言うように経済人ではなく互酬人であるのか？

⇒ 慈善団体に寄付したり、骨髄バンクへ登録したり、拾った財布を届けたりする人は相対的に少なく、行う場合でも利己的な報酬に基づいて行う場合が多い。

⇒ 純粋な経済人という想定も誤りだが、純粋な互酬人という想定も誤り。

⇒ われわれは経済人と互酬人の合いの子である。

7. NAVIGATING NORMS (P. 289)

○ 社会規範の生得性

- 利他的行動に関して、すべての社会は少なくとも次の二つの規範を備えている。

- 社会的責任: 自助努力ができない人を助ける
- 互惠性: 人の好意には報いる

⇒ 社会学者たちはこれらの規範が学習されたものだと主張する。

⇒ その証拠として、年上の子どもは年下の子どもに比べてより規範にかなった行動を行う傾向がある。

⇒ さらに、年上の子どもは社会的責任の方をより称賛に値するとみなし、過去に好意を受けたことがない人に対しても手助けを行うことになる。

7. NAVIGATING NORMS (P. 290)

○ 社会規範の生得性

- 発達において手助けのパターンは変化してゆくのは確か。
- ✓ しかし規範の学習説がその唯一の説明であるのかは不確か。

⇒ 道徳とは関係のない能力の発達によってそうした変化が生じている可能性がある。(他者の信念や欲求の理解、意図的／偶然的という区別の理解、将来に対する計画、過去の詳細な想起、など)

⇒ そうした変化は、道徳「理解」そのものではなく、行動と関連する道徳「能力」が徐々に発達してゆくことの現われだという可能性もある。ある研究によれば、道徳判断は異なる年齢層を越えて一貫性が見られる。

7. NAVIGATING NORMS (P. 290)

○ 社会規範の生得性

- 以上から示唆される見方
- ✓ われわれは社会規範の文法を備えており、それは利他主義がいつ許容され、いつ義務とされ、いつ禁止されるかを決定する諸原理に基づいている。
- ✓ 経験が行うのは、規範に関するパラメーターを設定し、ローカルな文化に応じて特定の細部を書き込んでゆくことだけである。

7. NAVIGATING NORMS (P. 290-1)

○ 社会規則研究の精神分析

- 現在の社会規則研究は人格分裂状態にある。
 - **ジキル**:異なる特色をもった社会規則の間には原理的な差異はなく、社会規則の領域で働く唯一にして万能の推論ジェネレータがあるだけ。
 - **ハイド**:道徳的・慣習的・許可的・予防的・個人的規則のそれぞれの間には実質的な差異があり、それぞれに対応した心理学的原理やパラメーターがある。

⇒ハイド氏の証拠は、発達研究と同時に進化生物学からもあがっている。

⇒だとすれば、ジキル博士が異常で、ハイド氏が正常。

7. NAVIGATING NORMS (P. 290-1)

○ Fiddickの研究

➤ 四枚カード問題の応用

- 予防措置条件: Tankは毒のある宗教的な飲み物。コーヒー豆はその毒を中和する。酋長:「Tankを飲むなら、君はコーヒー豆を口に含んでいなければならない」
- 社会契約条件: Tankは母から娘へ秘伝のレシピによって継承される至高の飲み物である。Tankを飲むためには、男は妻に贈り物をしなければならない。酋長:「Tankを飲むなら、君は妻に贈り物をしなければならない」
- 社会慣習条件: Tankは宗教的な飲み物であり、人々は伝統的にそれをコーヒー豆を口に含みながら飲んできた。慣習:「Tankを飲むなら、君はコーヒー豆を口に含んでいなければならない」

7. NAVIGATING NORMS (P. 292-3)

○ Fiddickの研究

➤ 四枚カード問題の応用

- **目的**:異なる社会条件は、権威・合意・普遍性の重要性に関して異なる判断を誘発するか？また、異なる正当化を引き出すか？

⇒実験では、一方のグループにはカードを選ばせ、他方のグループには質問を行って同意・不同意で回答させる。

- ✓**結果**:カードグループは三つの条件の成績に違いはなかったが、質問グループは微妙な違いを示した。被験者たちは予防措置と社会契約の間に違いを認めしたが、社会契約と社会慣習の間に違いを認めなかった。

⇒上記の質問に対しては肯定的な答えを支持。

7. NAVIGATING NORMS (P. 294)

○ Fiddickの研究

➤ 道徳感情についての研究

- 被験者はある種類の規則に関してそれに違反するエピソードを読まされ、違反者がどんな表情をするかを四つの表情（怒り、嫌悪感、恐れ、幸福）から選択する。

⇒ 予防措置的規則の場合には恐れが、社会契約的規則の場合には怒りが選択された。

➤ 違反の原因についての研究

- 社会契約の場合については、原因が意図的な場合は偶然の場合に比べて素早く検出できたが、予防措置の場合にはそうした違いは認められなかった。

7. NAVIGATING NORMS (P. 294-5)

○ Fiddickの研究のまとめ

- 以上の結果が示しているのは、予防措置、社会契約、社会慣習はそれぞれ異なる原理によって基礎づけられており、人々はそれらの原理に鋭敏であるということ。
 - ⇒人々はこれらの諸規則の違いを、機能・普遍性・権威に対する鋭敏性・違反の深刻さという観点から認識している。
 - ⇒これらの原理的な違いを御することが、われわれの道德能力の中核にある。因果的／意図的側面(ロールジアン)とそれが誘発する感情(ヒューミアン)。
- ✓ 言語とのアナロジーを貫徹するには、原理へのアクセス可能性などに関してさらに詳細な研究が必要とされる。

7. NAVIGATING NORMS (P. 296)

○ 道徳的実在論

- ✓ 社会規範の文法を特徴づけることで、道徳的実在論の論争に新たな論点を加えることができるかもしれない。
- ⇒ 道徳規範は客観的かつ普遍的に感じられ、社会規範は文化相対的に感じられる。
- ⇒ こうした違いを認識する能力は発達の早い段階で身に付く。

8. GOING NATIVE (P. 298-9)

○ ロールジアンデザインの三様態

- **弱**: 道徳的規範を学習する能力は備えているが、詳細は与えられておらず、いかなる一般原理も特殊原理ももっていない。最も弱いVer.は道徳に特化した能力すら有していない。(Prinz?)
- **中**: 道徳体系を築くための一連の原理とパラメータを備えている。ローカルな文化によって原理に内容が与えられ、パラメータが設定される。いったん設定された後に第二の道徳体系を習得する場合には多大な認知的負荷を要する。(Hauser)
- **強**: 遺伝的に脳内に組み込まれた特定の道徳原理を備えている。第二の道徳体系の習得は同様に多大な認知的負荷を要する。

8. GOING NATIVE (P. 299)

○ 弱？中？強？

✓ どの表現型が現在の経験的証拠に最も合致するか？

⇒ 道徳規範の相対性に関する事実(近親相姦の禁忌や暴力の禁止に関する文化的多様性)は、少なくともロールジアン(強)についての主張の一部は打ち崩す。

⇒ そもそもロールジアン(強)をとっている論者は見当たらない。

⇒ ロールジアン(弱)とロールジアン(強)はこうした批判にどう対処するのか？

8. GOING NATIVE (P. 300-1)

○ 弱？中？

- ロールジアン(中)にとっては、道德規範に関する間文化的な多様性はむしろ予想されることである。そうした多様性はローカルな文化による特定のパラメータ設定に由来する。

⇒文化間で一貫性が見られる場合、パラメータにデフォルトが存在することが推測される(デフォルトは言語の場合にも見られることが知られており、道德とのアナロジーが確認できる)。

- また、人々の道德行動に多様性が見られることは、必ずしもその基礎にある道德判断に多様性があることを意味しない。

8. GOING NATIVE (P. 302)

○ 弱？中？

- ✓ 普遍的な道德規範は生得的でなくとも学習によってもたらされうる(Prinz)
- ⇒ 実際、重力や太陽に関する素朴な知識は生得的でなくとも普遍性をもっている。
- ⇒ 三歳ですでに身につけている規則違反者を見破る能力は、観察や指導を通じて学習されうるか？
- ⇒ 経験的に学習されているとすれば、その能力の発動を指導によって早めることができるはず。逆に生得的に備わっているとすれば、その能力の発動は文化によらず一定の狭い時間幅の中で生じるはず。
- ⇒ こうした違いによってロールジャン(弱)とロールジャン(中)の間で採決を下すことができる。

8. GOING NATIVE (P. 303)

○ 弱？中？

- ⇒ 経験的に学習されているとすれば、その能力の発動を指導によって早めることができるはず。逆に生得的に備わっているとすれば、その能力の発動は文化によらず一定の狭い時間幅の中で生じるはず。
- ⇒ こうした違いによってロールジアン(弱)とロールジアン(中)の間で評決を下すことができる。
- ⇒ 第2章で得られた道徳能力の成長に関する考察から、**ロールジアン(中)**に軍配が上がると結論できる。これはHauserの立場でもある。

Grazie!

